



第59号 平成 8 年 12 月 29 日
 発行者 群馬県山岳連盟
 〒371 前橋市大手町1丁目1-1
 群馬県庁観光物産課内
 TEL (0272) 23-1111
 編集 群馬県山岳連盟編集委員会
 責任者 羽野順一
 印刷所 森田印刷

平成 8 年度

県山岳連盟登山教室報告

指導委員会副委員長 日向野 克己

平成 8 年度の登山教室が、盛況り当り、班ごとに行動しながら講のうちに無事終了した。近年、講師が全般的に指導するという方式わゆる中高年者を中心とした登山で行なったが、これはかなり機能ブームと言われる中で、この教室的であったといえる。読図、救急に対する関心は高く、募集当初から医療などは全体指導も行なったが、の間の問い合わせや申し込みは百名を越えた。

実施内容を確認して、単なるハイキングの募集でないと分かって参加をあきらめた人や日程が合わないため、止むなく辞退した人を「日向野克己」というテーマのぞき、実参加人員は八十名となったが、それでもこの数字は、われわれの予想をはるかに越えるものであったといえる。

一、開催日程及び内容について
 今年の開催日数は、昨年通り三日間とし、九月二十九日(日)予登山の基本となる日常的な事項に持し、十月八日(日)講義、十月十三日(日)赤城黒檜山という日程であった。初日、三日目の実技講習内容は、読図を中心に、歩行技術、生活技術、装備、救急医療、登山用具の使い方、気象など、基上の人々の関心を集めた。そして、本格的な登山技術全般に及んだ。

今年には参加者が多かったということもあり、全体を四班に編成、それぞれの班に講師を二名ずつ割た。たとえ登山ブームという背景

はあるにしても、この数字は、参加者の県山岳連盟の指導に対する期待をものではない

登山教室開催要項の発表は、主

として新聞掲載としたが、一部は

従来通り登山用品店に店頭掲示を

依頼した。結果は、申込者の 68

パーセントが新聞で知ったと答えている。新聞の掲載はほとんどの新聞

に及び、その効果は絶大であったと思われる。また、この種の催しに対する関心の深さも改めて知らされた。



三、参加者の登山経験について
 登山経験は、3 年ほどの人が 32 パーセントと一番多く、10 年くらいが 21 パーセント、「これから本格的に始めたい」「まだ始めたばかり」という人が、それぞれ 18 パーセントずつとなっている。

この結果から分かることは、健康や休暇の利用など、さまざまな動機から登山を始めたが、最近、中高年の登山者が遭難事故などを起こして問題視されるというようなかかりした山の技術を身につけて置きたいと考えている人が増えてきているということである。

山に入るにあたっては、特別な資格もいらないし、それほど金もかからない。ただ歩くよりは、変化があつてよい。気分も爽快になる。そんなことから簡単に山へ近づき、しかし、山は危険が常につきまとい、多分に冒険的な要素に満ちていることに気づく。

五、今後の課題について
 中高年を主体とした登山は、今後はますます盛んになっていくと思われる。今年までは一人だけで勝手気ままに歩いてきたが、これ以後のいのか不安になった」と話し、正しい登山技術を身につけたいと欲する人の数も増えていくことを代弁しているのではなかろうか。

参加者の中には、山岳会などに入りたての話を聞きたいと言

う人も 30 パーセントほどあり、今回実際に入会した人も多かった。ということになる。

今回、講習参加者が大幅に増えたということから、実技指導は全体を 4 班に分けて、それぞれの班に指導者を 2 名配置して実施した。この方式は結果的に良好で、細かい指導ができたという評価ができる。もともと登山は団体で実施するに方向いていないスポーツであり、こうした講習会の形を取る場合は、そのあたりを充分配慮すべきだと思ふ。読図、コンパスの操作など、マンツーマンの指導が必要で、今回もそうした面がカバーできる班編成の運営が成功したと思われる。



大きくなり、そのことがまた山岳で、一般登山者の、山岳連盟に対する期待が非常に大であること、この傾向は今後ますます増大する。山岳連盟と一般登山者との関係は、いまだにはあまり密であつたと言へず、どちらかと言えば互いに敬遠するような状況があつたことは否めない。山岳連盟といふことは否めない。山岳連盟の存在意義の一つが明確になつていふことも分り、このあたりに、の要求に答へられるものにしていかなければならぬ。講習内容は、更に多様化をはかる必要がある。年齢、技術などを考慮したクラス分け、グレードに応じた内容、場所の選定などが当面の課題となろう。

登山教室の究極の目的は、登山者の遭難をなくし、楽しく安全な登山ができるような状況を作つていくことである。そのために、山岳連盟登山教室の果たす役割は非常に大きくなってきている。登山というスポーツの底辺を広げていくという普及活動としての意味付けは勿論大事だが、他のスポーツと異なり、登山活動は、常に危険と背中合わせの「冒険」であるという点は重要だ。登山教室の指導は、そこから常に出発したものでなければならないと言えよう。

登山教室 参加者感想

◎コンパスの使い方、マスタート（まだ少し不安ですが）できたこと、教室に参加してよかったと思います。（四十代女性）

◎コンパスを利用しての山行、大変有意義でした（一応マスターしたつもり）。天気図の読み方、書き方など、気象に関してもう少し時間をかけて教えていただけたと

有り難いと思いました。はじめて参加させていただきましたが、勉強では長時間とどまり、写真を撮る強になりました。スタッフの皆さん大変有り難うございました。ガイドブックの歩行時間の三、四割も余分に時間を費すこともありました。（四十代男性）

◎会費が大変廉価であり、驚くとともに、大変感謝申し上げます。山には大体一人で登るので、地図、登山教室はどんなものなのでしょう。磁石は持ってゆくのですが、現在の確認はしてなくて、今回の講習ではその方法を具体的に教えて頂きありがとうございます。クラブの人たちみんなに、参加してもらいたいと思います。（四十代男性）

◎健康管理を通して、登山を続けたいと思いますので、大変参考にしたいと思つております。（五十代女性）

◎海外登山が夢。（五十代女性）

◎中高年が多いので、もう少し休憩時間をとってほしい。登山教室に中級クラスを設けて欲しい。（五十代男性）

◎簡単な足取り、ビバーク訓練を入れた。（五十代男性）

◎とても参考になつてよかった。アイセンスのように、クラスに応じた試験を行った上で修了証書を発行したらどうでしょうか。認定料は登山教室の発展に用いることにします。中高年の登山者に励みになると思います。（四十代女性）

◎去年に続いて二回目の参加。天候の見方が変わった。新聞の天気予報の見方も関心を持って見るようになった。朝日・上毛と力の入れ方が違う。（六十代男性）

◎次回も希望したいと思つています。（六十代男性）

◎今まで山に登ったことがなくて、内容については、ハイキング的で登山にためらいを持っていたので、密度の濃いものを希望。（五十代男性）

◎よって、多少の自信を持ってこれから登山を楽しめる気がします。（六十代男性）



◎最近一人で行動することが多かつたのですが、人と交われば得ることも大と思つきました。できればどこかの山岳会に入りたいと思つています。（五十代女性）

◎基本的な知識を習得できて良かった。これを応用して自ら学びながら安全な登山を心掛けた。（四十代男性）

◎知識がないままに山へ入っていたと思つたので、それは間違ひだったなと思つております。（五十代女性）

◎今回の登山教室で地図の読み方、コンパスの使い方、装備、用具の使い方など、総合的に実習が受けられて、今後の山行に大変役についた。（五十代女性）

◎とても参考になつてよかった。アイセンスのように、クラスに応じた試験を行った上で修了証書を発行したらどうでしょうか。認定料は登山教室の発展に用いることにします。中高年の登山者に励みになると思います。（四十代女性）

◎去年に続いて二回目の参加。天候の見方が変わった。新聞の天気予報の見方も関心を持って見るようになった。朝日・上毛と力の入れ方が違う。（六十代男性）

◎次回も希望したいと思つています。（六十代男性）

◎今まで山に登ったことがなくて、内容については、ハイキング的で登山にためらいを持っていたので、密度の濃いものを希望。（五十代男性）

◎よって、多少の自信を持ってこれから登山を楽しめる気がします。（六十代男性）



第七回山田昇記念杯

登山競争大会

総務部 千明 政彦



平成八年十月六日(日)に第七回山 最後は山岳昇歌を会場全員で歌った。また十月五日(土)の午後六時として、懇親会を行った。

より、前夜祭も行われ、大会を前にかなり盛り上がった。前半は地(参加申込数百三十五人、欠場者十人)のメンバーが阪神淡路大震は六十六人(参加申込数七十三人、欠場者十五人)、一般の部は百七十三人(申込数百五十九人)、役

選手で五連覇の偉業を成し遂げた。女子では田村とみ江選手が三年連続トップで山田昇選手とのタイム差を年々縮めている。

本部前では恒例のビール、おでん、豚汁など豊富に用意され、たくさんの方々が賑わっていた。午後三時三十分には閉会式を行い、今年も無事に大会を終了した。

三 枝 賞 順 位 表

順位	氏 名	所 属	時 間
1	飯塚 富久	県立中之条高校	2時間42分22秒
2	神村 恭行	県立安中実業高校	2時間46分37秒
3	高橋 泰司	県立勢多農林高校	2時間56分20秒
4	佐藤 寛	県立高崎工業高校	3時間03分03秒
5	森田 光	県立中之条高校	3時間03分50秒
6	足利 敦雄	県立安中実業高校	3時間18分50秒
7	原田 義明	県立高崎工業高校	3時間31分41秒
8	飯塚 公知	県立渋川高校	3時間31分53秒
9	千木 良誠	県立中之条高校	3時間33分07秒
10	高橋 京介	県立高崎高校	3時間35分48秒
11	河 弘樹	県立安中実業高校	3時間36分31秒
12	生 方辰也	県立渋川工業高校	3時間38分44秒
13	藤井 征典	県立高崎工業高校	3時間40分07秒
14	金田 卓也	県立安中実業高校	3時間45分30秒
15	湯本 奈保	県立安中実業高校	3時間45分43秒
16	増田 晃則	県立中央高校	3時間47分37秒
17	本多 英明	高崎経済大学付属高校	3時間48分35秒
18	加部 誠一	県立渋川高校	3時間53分29秒
19	宮崎 剣一	県立中之条高校	3時間59分42秒
20	村上 良太郎	県立安中実業高校	3時間59分54秒
21	馬場 隆	県立安中実業高校	3時間59分57秒
22	藤巻 かおり	県立渋川女子高校	4時間02分44秒
23	齋藤 大輔	県立渋川高校	4時間02分45秒
24	上原 賢治	県立安中実業高校	4時間02分46秒
25	吉井 章人	県立高崎工業高校	4時間03分43秒
26	上原 宝樹	県立安中実業高校	4時間04分09秒
27	寺島 樹	県立中之条高校	4時間05分38秒
28	田中 健照	県立高崎高校	4時間06分14秒
29	宮川 茂	県立渋川高校	4時間09分25秒
30	八 高茂	県立利根実業高校	4時間14分48秒

山 田 杯 順 位 表

順位	氏 名	所 属	時 間
1	山田 豊	沼田山岳会	2時間16分23秒
2	佐藤 昭則	TFDST第4小隊強力隊	2時間26分43秒
3	石井 龍男	千葉オリエンテERINGクラブ	2時間27分40秒
4	横山 幸男	渡良瀬R・C	2時間28分02秒
5	大山 洋次	境町山の会	2時間30分21秒
6	田村 とみ江	オルゴール館椎坂	2時間32分57秒
7	石原 輝雄	玉村クラブ	2時間37分32秒
8	賢田 健司	埼玉滑川走友会	2時間37分54秒
9	谷 博史	若葉グリーンメイト	2時間40分07秒
10	若井 栄一	TFDST第4小隊強力隊	2時間41分09秒
11	粕川 嘉久治	群馬県勢多郡新里村	2時間41分30秒
12	林 幸男	群馬県邑楽郡邑楽町	2時間44分32秒
13	佐藤 真理子	東京都小金井市	2時間45分43秒
14	下 嶋 浩	田園クラブ	2時間48分44秒
15	池田 友明	足利走友会	2時間52分11秒
16	板谷 耕介	法政大学山岳部	2時間55分29秒
17	女屋 寿美子	群馬県前橋市	2時間59分29秒
18	山田 慎一郎	千葉県船橋市	3時間01分07秒
19	田中 孝男	桐生走ろう会	3時間01分26秒
20	箱田 敬三	渋川クラブ	3時間06分07秒
21	山田 久	TFDST第4小隊強力隊	3時間08分39秒
22	中島 剛二	沼田山岳会	3時間08分49秒
23	法領田 恵	コアラ山の会	3時間09分12秒
24	木島 由晶	東京都八王子市	3時間09分32秒
25	剣持 典之	境町山の会	3時間10分06秒
26	賢田 晴見	埼玉滑川走友会	3時間10分58秒
27	飯田 祐治	誕生会	3時間12分29秒
28	渡辺 孝	榛東走ろう会	3時間12分30秒
29	瀧澤 輝幸	愛泉保育園	3時間12分52秒
30	中 澤 安信	伊勢崎山岳会	3時間13分02秒

技術と信用で地域社会に貢献する

総 合 建 設 業


萬 屋 建 設 株 式 会 社

取締役会長 星 野 光

本 社 群馬県沼田市下之町880番地 TEL 0278(23)4648(代表)

支 店 東京都豊島区東池袋4-2-7 TEL 03-985-7631

